

登録コード	TOH10900	開講年度	2026					
授業科目	博物館実習（16T以降）					担当教員	寺内 美紀子 他	
英文授業名	Practice of Museumology 2					副担当		
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	学部4年生
講義室				授業形態	実習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】					【授業の達成目標】		
	2 5 Tカリ， 2 3 Tカリ							
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。					博物館学芸員の業務を理解することができ、自らの専門性との関係を考察することができるようになる。		
	2 6 Tカリ							
	【26T～】共通教育による幅広い教養と，工学の専門分野における基礎学力が身についている。					博物館学芸員の業務を理解することができ、自らの専門性との関係を考察することができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、芸術文化、環境共生、多文化協働、キャリア							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	受講生は、実習先博物館・美術館の事前リサーチを行う。それをもとに指導と情報交換・議論を経て、受講生はそれぞれ館園実習に向かう(第1回から第12回)。実習終了後、受講生は自身の実習を振り返り、その成果と反省点を発表用の資料として整理し、実習報告会において口頭発表を行う(第13回から第15回)。							
(5)授業計画	第1回：ガイダンス(実習および実習前・実習後の達成課題について) 第2回：実習先博物館の事前リサーチ、実習先の決定以降、12回目までを実習とする 以下、13から15回を集中授業で行う 第13回：実習報告資料の作成（発表会までの提出） 第14回：実習報告会（合同発表会） 第15回：実習報告会（討議、受講3年生との質疑応答）、授業アンケート							
(6)成績評価の方法	受講の積極性(出席およびグループワーク等への取り組み)50%、各種レポート50%							
(7)成績評価の基準	実習のレポートと実習時の積極性を評価する。							
(8)事前事後学習の内容	レポート作成時に関連資料を自ら探すことが求められる。次回授業の内容について自ら資料にあたり、イメージを作りあげておくこと。							
(9)履修上の注意	博物館学芸員資格関連の他科目をすべて履修しておくこと。博物館を自主的に見学し、鑑賞経験を高めること。							
(10)質問,相談への対応	随時 メールが望ましいが、質問内容に応じて面談・相談を行う 寺内：terauchi@shinshu-u.ac.jp							
(11)その他								
【教科書】	指定しない							
【参考書】	「学芸員の仕事」神奈川県博物館協会編 磐田書院							